

Perplexityが変える知財実務の未来：AIエージェントによる変革とリスク

知財業務における「機会」：圧倒的な生産性の向上

知財業務における「リスク」：法的・安全上の懸念



4週間で3.25年分の業務を完遂

マルチモデル統合により、リサーチから成果物生成までの全工程を自律化し、人件費を大幅に削減。



自然言語でのDB検索や応答書ドラフトの5倍高速な作成により、ルーチン作業を劇的に短縮。



未整理データからの発明抽出と自動起草：ローカルファイルへのアクセスにより、発明候補を自動で構造化。



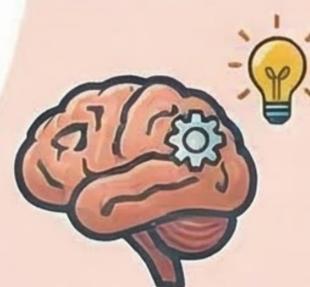
未公開発明の漏洩と新規性喪失の危機

クラウド送信された機密情報が外部利用されることで、特許を受ける権利を失う極めて高いリスク。



ハルシネーションによる法的信頼性の欠如

架空の先文引用は特許権の行使不能を招くため、常に人間による最終検証が不可欠。



AI生成発明の「発明者適格性」問題

USPTOは人間による「着意」を重視しており、AI主導の権圧棄などは将来の無効事由になる可能性。

実務チェックリスト：AIへの委任可否の明確化

業務タスク	AI適合性	推奨アプローチ
形式チェック・文献要約	極めて高	AIに全面委任可能
OA応答・発明抽出	中~高	Copilot (人間が選択・修正)
権利範囲の最終決定	委任不可	弁理士・専門家が全責任を負う